



新シリーズ①

成長を続ける FITNESS SPA

スパ&フィットネスジャーナリスト
渡辺 真衣



- ①「楽園」をテーマとするクラブとして、名前を「EDENA (エデナ)」へ
- ②緑をテーマにくつろげるエントランスラウンジ
- ③色・音・香のセラピープログラムサウナ「カラスバ」(R) ホットマーク社

プールをやめ、子供会員をなくし、大人のためのクラブに変身。

18年目の業態変化を決断し、スパ化することで集客に成功したフィットネス&スパリノベーション最新事例とは…

フィットネススクラブが急速に増え始めた1990年代の施設が、10年〜20年目を迎え、現在、多くの施設がメンテナンスや改装の必要性に迫られております。

景気の後退、人口と会員層の変化、若者のクラブ離れと退会率の高さ、光熱費の高騰による施設維持管理費の問題…さまざまな問題を抱えたクラブにとって、

(1)大掛かりな投資をしてリノベーションを行い、新たにこれから10年施設運営を継続するか

(2)必要最低限の補修で現状を維持し、決断を先延ばしにするか

(3)クラブをやめるか

という大きな決断を迫られています。

2009年4月に生まれ変わった埼玉

県坂戸市の東武東上線坂戸駅前にあるフィットネス&スパ エデナ坂戸店は、この課題の解決に対してとても参考になる事例といえます。

1991年に「フィットネススクラブ アレックス坂戸」としてスタート。18年目を向かえた今年2009年は、施設は老朽化し、会員数も減少していたため、策を講じる必要がありました。改修前は大人を対象とした6F部分でジム、スタジオ。そして7F部分のプールは大人・子供の共用として営業していました。しかし、地域の少子高齢化の傾向とプールの改修と維持にかかる費用を考慮した結果、プールのない「ジム・スタジオ業態」としてリノベーションをすることを決定。健康とリラクゼーションを目的とする中高年の女性を集客するために、スパに注目し、「ココロとカラダの理想郷」をコンセプトとし、地域の理想的なコミュニティとなる大人の楽園を目指して、店舗の名前も「アレックス」から「エデナ」に変更。緑を基調とした落ち着いた感じのある施設に一新しました。

スパゾーンはロッカー直結になっており、専用の館内着を着て男女ともに使えます。スパのコンテンツとして、「ストーンスパ(岩盤浴)」「カラスバ」「ロウリュスパ」「クーリングスパ」の4つの特徴あるエリアに分け、その他リラクゼーションエリアを

6F



施設概要
フィットネス&スパ エデナ坂戸
住 所: 埼玉県坂戸市日の出町3-5 ラ・サルテビル6F
営業時間: 平日10時~23時、土曜10時~22時、
日・祝10時~19時半、休館日木曜日
総床面積: 1944.2㎡
<http://edenajp/index.html>

運営: 株式会社マルワ
設計・コンセプトデザイン: 有限会社空デザイン
マーケティングコンサルティング: 株式会社フィットネス
スパプランニングサポート: 有限会社ホットマーク

7F



④ストレッチが行えるリラクゼーションエリア ⑤定期的に蒸気を発生させる「ロウリュースパ」 ⑥女性専用岩盤浴 ⑦リラクゼーション効果のあるブルー照明。ペパーミントの香りが特徴的なクーリングSPA

広く取り、ストレッチができるスペースをもうけました。スパゾーンのコンセプトとして「ココロとカラダのバランスを保ち、健康な状態を自ら作る」「自己治癒力」に着目し、「温熱療法」「温冷反復浴」「色彩療法」「芳香療法」「休息・回復」の5つの効果をセルフで楽しめるようになっていきます。

異なるユニークなサウナの寄せ集めにならないよう、



会員向けにスパコンテンツを説明するオリジナル冊子も作成。特にユニークな試みとして、セルフヒーリング(自己治癒)を行えるプログラムをイラストでご案内し、より効果的な使い方が会員さん自らできるよう、会員の目線でスパ作りを実施した点が成功の一端を担っています。



今回のリノベーションにより会員数は大幅に増加。特に女性会員数の割合が増え、また会員層は20代から60代まで幅広い層の会員を集客することができました。時間帯によつて会員層も入れ替わり、今までよりも若い女性の会員が増えたため、夜の稼働率が上昇。会員が増えたものの会員利用時間が分散しているため混雑による会員へのストレスも少なく順調な滑り出しといえます。

今回の成功で一番の大きな要因は、オーナーであり、施設運営を行う株式会社マルワの経営陣が地元である坂戸への貢献と活性化への熱い情熱を持ち、リノベーションの計画段階から積極的に関わっていたことです。

ジム・スタジオ型フィットネスクラブ専門のマーケティングコンサルティング会社と設計・デザイン会社を起用し、業界プロによる知識・経験と地元の坂戸を熟知したオーナー会社の情熱が融合し、新たな業態が生まれたといえます。